

## 令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和7年4月27日現在

研究課題名	ソ連時代に変化したウクライナ語の正書法について	
申請者	氏名	所属機関・職
	DATSENKO IHOR	名古屋大学、中京大学、名古屋外国語大学、名古屋市立大学・非常勤講師

## 研究成果の概要

本研究は、ソ連時代に行われたウクライナ語の正書法の変遷に焦点を当てる。ウクライナの言語学者がいまだに模範的とみなしている1928年の正書法は、1933年、1945年、1960年に修正された正書法に取って代わられた。なお、本研究を行うためには、ソ連時代に公刊された正書法のみならず、1930年代から1980年代の間に出版された文法書や辞書などの著作物を研究する必要がある。

スラブ・ユーラシア研究センターの図書館にて資料調査中、1946年および1960年の正書法を加えて、ソ連崩壊後に公刊された1990年および1993年の正書法も見いだされた。それ以外にも、シェヴェロフ・コレクションにおいて本研究にとって貴重な1919年および1999年の正書法案、アメリカにおいてウクライナのディアスポラで発行されて正書法（1946）、正書法辞典（1941）も見いだされた。シェヴェロフ・コレクションにのみ所蔵される『Movoznavstvo』、『Ukrajins'ke movoznavstvo』、『Ukrajins'ka mova i literatura v shkoli』などという雑誌も調査された。これらの雑誌には、ソ連時代におけるウクライナ語の発展を明らかにする貴重な論文が掲載されているため、研究に必要な1930-1986年の論文がスキャンされた。

研究調査は2回実施された：2024年9月11-13日および2025年2月4-7日。約150件の書籍や論文がスキャンされた。調査資料は「The Modern Ukrainian Orthography: Is Decolonization Possible」という作成中の論文にて使用される。本学術振興会の「研究活動スタート支援」に応募された「強いられた多言語社会：ソビエト時代のウクライナ語とロシア化政策再考」という研究で使用される。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

日本学術振興会「研究活動スタート支援」

研究課題名：強いられた多言語社会：ソビエト時代のウクライナ語とロシア化政策再考

申請提出日：2025年4月25日

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。